1. 1. 私はSESの高い、裕福な家庭の長男であり、父はWASPのアメリカ人、母は日本人です。両親とも大学を卒業しており、高学歴ではないものの勉強熱心ということもあり幼時から常に身の回りにたくさんの本がありました。父が働き、母が専業主婦として子育てや家事をするという伝統的な家族構成であり、家庭では日本語も英語も標準的な精密コードの言語を使用していたため、幼少期からフォーマルな言語を操るのに長けていました。
   2. 私が通った幼稚園は全日制でしたが、英語の習熟度が特に高い生徒は半日で下校でき、かつ学校の課題を特別に免じてもらえるという仕様でした。クラスのほとんどが全日コースを受けている中で、私ともう一人の子だけが半日で終わっていました。しかし、まだ幼稚園であった子供達の間で、言語の習熟度にめざましい違いなどはありませんでした。私ももう一人の子も他の生徒と比べて嶄然と英語のできが良かったわけでは決してありませんでした。それどころか、実質的な英語能力にほとんど差はなく、むしろ全日で英語の授業を受けている残りの生徒の方が英語ができるようになっていたという有様でした。それなのに私が半日コースに振り分けられたのには、家庭の背景が強く影響をしていたと考えられます。私の父は白人でプロテスタントの中間層のアメリカ人というかなり高いSESを持ち、同じデモグラフィックにより優占的に構成されていた先生陣と仲がよくてコネを多く持っていました。そのため、私の家庭は先生からの信頼が厚く、学校でしなくても家で十分に教育を行ってくれるというような信用がありました。これらが直接的に作用した結果私は半日コースに配属されたのでしょう。また、このような家庭背景を持ったおかげで、僕は幼少期から比較的フォーマルな英語に長けており、父の友好関係の都合により先生などの目上の大人との交流が多かったため、大人との会話に慣れていました。そのため、学校の先生とある程度仲が良く、また先生と生徒の上下関係の保ち方が上手であり、先生陣からは学業での実績が伴っていなくとも優秀であると先行的に信じられていました。これは私の家庭とそのSESから私が受けた影響が間接的に作用しており、これも私のトラッキングの上で重要な要素となったと思われます。  
      　高校でも私は学力の高い人向けの進学期待の高いコースに所属していましたが、それには直接的と間接的な要因が関係しています。直接的には、私の母親が社交性のある賢い人で、PTAなどにも積極的に参加しており先生がたと仲が良かったということが挙げられます。そのため、私の母は先生がたから非常に評価が高く、その息子である私も同様に賢いであろうと推測されていました。また、間接的には私は家で本に囲まれて育ったため、口調が大人びていて論理展開も得意でしたので、先生から高く評価されていました。私が学校に反抗するときも、他の生徒がやれば真剣に扱われずに済まされてしまうことでも、私がやれば何かしら理由があるはずだという風に真剣に検討されました。このように教師から高い期待を寄せられ、最初から他の生徒とは区別されて目をかけられ、そのような高い期待と手厚いサポートが一種のトラックとなっていました。

　私の通った高校は学校レベルの低い普通科高校であり、生徒の多くが専門学校などに進学して、卒業してマニュアル労働に従事するというような進路を辿っていました。そのため進学に対する意欲は非常に低く、大学のレベルの基準も低かったので、東大や早慶はありえない雲の上の大学というような認識が持たれていました。そのため、私自身もあまり進学アスピレーションが高くなく、そのような生徒に囲まれるうちに自分は早慶などの有名な大学に進学できるわけないと考えるようになりました。しかし、小中時代に真逆のブルジョワ教育を受けた私は自分と他の生徒の考え方に大きな違いを感じ、早々から自分を他の生徒とは対照的な存在という風に位置付けるようになりました。私が感じた最たる周りと自分との違いは、周りの主体的な意思の欠如でした。消極的で受動的に生きる周りを見て、なぜそうであるのか非常に疑問に思い、私は労働者理論などの社会学や社会主義理論、共産主義理論を勉強しました。この時に芽生えた社会科学への興味が、政治経済という私の最終的な進路選択に大きな影響を及ぼしています。

1. 1. 私よりもさらに高いトラックを進んだ子は、SESのとても高い、裕福な高校に通いました。お金が際限なくあったので施設や設備も最新のトップティアのものがあり、通っている生徒が勉強のためのリソースに困ることはまずありませんでした。また、エキストラカリキュラな活動も数多く開催しており、大学受験において課外活動の比重が大きいアメリカの入試システムにうってつけの環境でした。教師のレベルも比較的に高く、教師一人あたりの生徒数も少ないため、特に大学受験のアプリケーションフォームなどで手厚い保護とサポートを受けられるようになっていました。生徒はそのレベルに応じてクラスを振り分けられ、優秀な生徒には種類豊富なAPクラスが選択可能でありました。私の友達も、これらの環境を最大限に利用し、多くのAPクラスで先生や家庭教師のサポートを受けながら優秀な成績を残し、ロボット部などの理工系の課外活動にも積極的に取り組みました。
   2. 私の友達は中高一貫の学校に途中から編入して入り、編入した当初は特別勉強ができるわけでもなく、また勉強の意欲や活動意欲の高い方ではありませんでした。しかし、学校の意欲的な環境と、周りの人間の取り組みに感化されて、高い進学アスピレーションを持つようになり、課外活動にも活発に取り組むようになりました。また、学校の充実した教育プログラムと先生の厚い支援により、そこまで良くなかった学業成績も向上しました。常に何かしらの課外活動がある環境の中で、様々なことに挑戦し、地理的、環境的制約を考えずに主体的に行動する習慣も拾ったように見えました。その結果、彼女は多くのアメリカの有名な大学に受け入れられ、最終的にMITへ進学することになりました。この進学先には、受験などに縛られず幅広い学習ができ、容易に多様な活動に励むことができる恵まれた環境が影響したことは違いありません。